

STOP! THE YANBA DAM



CONTENTS

- ◆ 千葉から「ハツ場ダムは
要らないの意見」を公述
……武笠紀子
- ◆ 現地からの報告 ……渡辺洋子
スーパー堤防は、スーパー無駄づかい!!
……村越啓雄
- ◆ 会員の声
今からでも遅くない、ハツ場ダムは自然に返そう
……三橋トキ子
- ◆ 田んぼダムの発信地 新潟へ
……入江晶子
- ◆ お知らせ
- ◆ 編集後記 ……坂倉敏雅

vol.22



ハツ場ダムをストップさせる千葉の会

代 表：中村春子・村越啓雄
住 所：〒285-0825 千葉県佐倉市江原台2-5-29
TEL/FAX: 043-486-1363
E-mail: yanbachiba@gmail.com
ウェブ: <http://yanbachiba.blog102.fc2.com/>
2015年8月28日発行

●会費納入のお願い (一口 1000円/年)
会費振込先: 00120-5-426489

千葉県から「ハツ場ダムは 要らないの意見」を公述

～ハツ場ダム建設工事に係わる公聴会に参加～

6月26日(金)と27日(土)の両日、東吾妻町コンベンションホールにおいて、ハツ場ダム建設事業地内の土地や家屋を強制収用するための事業認定についての公聴会が開かれました。

公聴会では合わせて22組から公述があり、起業者の国交省を除き、賛成意見は7組、反対意見は14組でした。賛成は地元長野原町の議員3名・加須市副市長・埼玉県水資源課長・埼玉県副知事・えどがわ環境財団理事長(元江戸川区土木部長)という顔ぶれで、個人としての意見は無し。反対は、強制収用される当事者の方や1都5県のストップハツ場ダムの会のメンバー等一般市民で、各々の立場から質問と意見を述べました。千葉の会が、いつもデータや情報の提供をいただいている埼玉の嶋津暉之さんが、的確な質問をされましたが、国交省地方整備局はまともに答えず、聞いていないことを答えるなどして時間切れに持ち込むという態度をとりました。

27日(土)の午後の部に「ハツ場ダムをストップさせる千葉の会」から5人が参加、3人で公述してきました。千葉の会では公述内容について検討した結果、質問してもまともに答えとは思えない、こちらの反対意見を国交省に表明して来ようということに決めました。3人一組で申請、中村さんからは「利水の面からも、治水の面からも千葉県にとってはハツ場ダムは必要がなくなっている」という主旨の意見。武笠からは「下流域としてご迷惑をかけてきた。成田空港問題があった千葉県民として、強制収用でダムを造るのは許せない」という主旨の意見。村越さんからは「千葉県に役に立たないハツ場ダムに支出される多額の税金は県民にとってはムダだ」という主旨の意見を公述してきました。

*詳細については、それぞれのホームページを見てください。(武笠紀子)

現地からの報告

本体工事どこまで進んでいるの？

吾妻渓谷の上流部では、夜になってもライトで谷間が煌々と照らされ、本体工事が進められています。ダイナマイトを使用した発破も毎日行われており、8月11日からは本体工事見学ツアーが始まりました。

国交省はマスコミ向け説明会で本体工事は順調に進んでいると強調し、1月から始まった基礎掘削工事は約60万立方メートルの掘削予定土石の3割近い18万立方メートルを削り込んだと説明しています（7/31付上毛新聞、毎日群馬版など）。しかし掘削はいまだに兩岸の上部です。ダムサイト予定地は兩岸から落とされた土石で埋まっている状態で、土石運搬のために一般供用が廃止された旧国道もまだ利用されています。（写真＝本体左岸の作業ヤード 8月22日撮影）



ハッ場ダムができるとうどうなる？



地域振興施設の維持管理費はだれが払うの？



「ハッ場あしたの会」ホームページより

やんば千葉裁判は今 最高裁で

2013年11月12日 上告状兼上告受理申立書を提出して上告。

2014年2月3日 上告理由書、上告申立理由書提出。

2014年9月5日 上告受理申立理由補充書(1) (判例違反の指摘)、上告受理申立理由補充書(2) (高裁判決の誤りを指摘)、上告受理申立理由補充書(3) (基本高水の設定の誤り) 提出。

2015年3月18日 上告受理申立理由補充書(4) (公定力理論)、上告受理申立理由補充書(5) 提出。補充書(5)の結びに原告の気持ちがかもっています。

「河川法63条の要件及びその主張立証責任の所在につき、初めての判断を下されるにあたっては、歴史的経過と憲法の理念に対する深い配慮を及ぼされることを申立人らは切望する」

来年6月からコンクリート打設が始まる予定ですが、6月の公聴会では「基礎掘削の結果、想定外に熱水変質帯が広がっていたり岩盤の節理が深刻であった場合は、ダム本体工事の設計変更を行うのか？」との質問に対して、国交省は「実際に現われた岩盤の状況によっては、設計内容を照査する」と答えており、先行きは不透明です。

川原湯地区の発掘調査

ダム予定地では遺跡の発掘調査が急ピッチで進められています。群馬県教育委員会によれば、今年度の発掘調査は約9万平方メートル、残りは約30万平方メートルです。国交省と群馬県による発掘調査の協定はこれまでに三回変更されましたが、調査期間の三度目の延長と調査費用の再増額が必要とされ、今年度中に第四回の協定変更が行われる見込みです（6/4県議会・文教警察委員会、酒井宏明県議による質疑）。調査費用の増大はハッ場ダムの事業費増額につながります。

川原湯地区の発掘調査は、旧・川原湯温泉駅周辺の下湯原遺跡と新駅の谷側にある石川原遺跡が中心です。いずれもいわゆる“天明の浅間焼け”によって、吾妻川を流下した泥流に覆われた場所です。下湯原では天明の畑跡や平安時代の竪穴住居跡などが出土し、石川原では天明当時の記録にある不動院という名の密教寺院跡が出土しています。

このように、水没予定地では次々と重要な歴史遺産がみつかっていますが、発掘調査が報道で取り上げられることは殆どありません。かけがえのないものが失われ、表層的なニュースばかりが流れているように思われます。

（ハッ場あしたの会・渡辺洋子）

スーパー堤防は、やっぱり、スーパー無駄づかい!!

千葉県議会は、「利根川、江戸川の高規格堤防整備促進に関する意見書」（平成12年12月5日）を採択し、国に提出した。

意見書には、近年の異常豪雨が多発する傾向にあり、現在進めている河川改修では対応できないことは十分予想されることから、利根川、江戸川の高規格堤防整備事業（スーパー堤防）の早期完成を図るよう強く要望する、とし、自民党およびその他議員が賛同した。

「スーパー無駄づかい」の復活

民主党政権の2010年、「事業仕分け」で、全国の総延長873kmのうち、整備（着工）区間はわずか5%強の50kmであるにもかかわらず、すでに約7000億円もの予算が投じられ、これを基準に計画を算定しなおすと、総工費は12兆円に達し、しかも完成は400年後との試算が出た。スーパー堤防事業が「スーパー無駄づかい」と断罪され「いったん廃止」に。

しかし、それでも諦めない国土交通省は、事業対象区間を当初の7分の1の120kmに絞ったが、それでも総事業費10兆円、完成予定は遥か300年後と予想される。会計検査院も、2012年の検査報告で総事業費は最大で66

兆円にまで膨らむ、と極めつけた。

かき消された「真っ当な見直し論」

ハッ場ダムの見直しを議論した国交省の審議会「利根川・江戸川有識者会議」において、関良基委員（拓殖大学准教授）は、スーパー堤防についてこう質した。

「江戸川で22kmのスーパー堤防を作るには1兆円以上かかる。河川整備計画との整合性は全くない。限られた予算を最大限有効に使う手法を選ぶべきだ」。

しかし、現状では、疲弊する地方の建設業界の救世主として、「国土強靱化」事業が進み、東京の中心部にまで及んでいる。

江戸川区北小岩一丁目地区では、江戸川沿いの片側全長わずか120mに約43億円もの巨費を投じる計画だ。この計画の反対派住民は昨年11月、強制代執行の中止を求めて東京地裁に提訴した。

原告団事務局長は「この地域では長年水害は起きていない」と必要性を疑問視する。七十代の女性は「自公政権で立ち退きを強く求められるのではないかと不安だ。水害の不安は感じておらず、福島県など東日本大震災の復興にお金を使って欲しい」と訴えた。（村越啓雄）

会員の声

いまからでも遅くない、ハッ場ダムは自然に返そう

真の文明とは、山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし、これは、誰もが知っている、自由民権運動家といわれる田中正造さんの有名な言葉です。この短い言葉の中には、人間だけでなく生き物すべてが自然の中で生かされているということを感じさせられます。まさにハッ場ダムはこの言葉に逆らっているとしか言いようがありません。山を切り崩し川をせき止めてしまいます。

私は、岩手の山と海に囲まれた開拓地で育ちましたが、当時、年寄りが言っていた言葉が自然と心に沁みこんでいます。それは、「自然というものはバランスよくできているものだ。だから、山の本を切ったり、山を切り崩したり、また、川をせき止めてダムをつくるなどしたら、自然のバランスが崩れてしまう。そして、森は大きな自然のダムなのだ。その木の中でも特にブナの木は保水力が抜群である」という言葉です。

吾妻川のあの絶景とほのぼのとさせられる川原湯温泉も破壊してしまいました。そして、極めつけがその土地で長い年月を経てきた人々の暮らしと心のつながりをも、それこそ、現代版の文明の利器で殺してしまいました。

人間だけにとどまらず、その土地で共存してきた動物や

植物の生き方までもが変えられてしまったのです。人間が同じ人間の暮らしを権力を振りかざして強引に追い立てる行為は許されるものではありませんし、傲慢としか言いようがありません。

私は、何度も現地を見学しましたが、地質学の方の説明を聞いていて、脆弱な山肌の至る所に漏水を防止するための杭が打ち込まれているのを目の当たりにして、私のような、専門知識がなくても、こんな小手先の工事で漏水を防止できるわけがないのに、とあまりにも自然を侮っているやりかたに呆れ果ててしまいました。そして、このままダムが完成し、いざ、湛水した時にダムが決壊するのではないかと想像しただけで身震いしてしまいました。それだけのリスクをおかしてまで、ハッ場ダムを必要としているのは誰でしょうか。

山林、森は自然のダムで、洪水を防止する役割も担ってくれています。その自然に、我々生き物は生かされているのです。常に、その謙虚さを忘れないように、日々、まい進したいものです。

今なら、まだ間に合います。田中正造さんの教訓通りに真の文明に立ち戻ろうではありませんか！（ミツ橋トキ子）

「田んぼダム」の発信地 新潟へ

千葉県でも局地的な集中豪雨による浸水被害が多発。その被害の9割超は、溝等があふれる「内水」氾濫。ところが、国も県も川が氾濫する「外水」氾濫対策ばかりを優先し、川幅を広げる河川改修やダム建設を進めています。これでは、「内水」氾濫は防げません。さて、どうしたものか？

7月末、内水氾濫を防ぐユニークな治水政策「田んぼダム」を展開している新潟を訪ねました。今から13年前、全国に先駆けて旧神林村（村上市）で取り組みがスタートし、県の農地部が新潟大農学部吉川夏樹准教授との連携で全県的に広がっています。現在、13市町村66地域で実施（実施面積12,000ha超）され、とりわけ見附市では市長が力を入れているそうです。

田んぼダムってなに？

田んぼがもともと持っている水を貯める機能を活用し、大雨が降った時に田んぼに一時的に水を貯めることで洪水被害を軽減する取り組みです。時間をかけて少しずつ流すことにより、排水路等の増水が軽減されます。

効果アリ！田んぼダム

2011年新潟・福島豪雨では、豪雨の3時間前に農家へ田んぼダムの徹底を指示し、約80%の実施率となりました。吉川さんがその効果を検証したところ、浸水面積が減少し、被害軽減額は122億円。豪雨当日の田ん

ぼダム機能の経済的価値は、10アールあたり42,000円とのこと。水害防止に加え、地域の防災意識が高まり、住民に安心感も生まれてきているそうです。

農家へのメリットは？

このように農家の協力なしには成り立たない田んぼダム。普及していくためには、農家の負担を軽減し、地域ぐるみの持続的な取り組みにしていかなければなりません。吉川さんと新潟県が国に「田んぼダムによる防災事業」を働きかけた結果、昨年度から新たな交付金制度が創設され、調整板の設置のほか、畦畔の嵩上げ・強化などにも使えるようになりました。

ハツ場ダムより田んぼダム

田んぼダムは、費用対効果の点でも大きなメリットがあることがわかりました。治水ダム建設には数百～数千億円かかるのに対し、田んぼダムの落水量調整装置の設置費用は、1個当たりわずか数百から数千円。計画から完成まで数十年かかるダムに比べ、田んぼダムは翌年からでも実施可能です。内水被害の状況を分析し、適地を選ぶ必要がありますが、千葉県での可能性も大と感じました。

農村の過疎化や高齢化、米価下落やTPP問題と農業をめぐる環境は厳しさを増し、農地管理も難しくなっています。これまでも田んぼは食料需給だけではなく環境保全の機能を発揮していました。これに洪水緩和機能という付加価値を持たせるのが、「田んぼダム」。全国では兵庫県や山形県等でも取り組みが始まっており、今後、千葉県にも提案していきたいと思います。（入江晶子）



お知らせ

■ハツ場ダム学習会

DVD「ダムネーション」…アメリカでのダム撤去後の川の再生…を観て、ダムについて考える。

10月18日(日) 10:30～12:00

船橋市中央公民館5F(船橋駅より徒歩5分)

■ストップハツ場ダム住民訴訟11周年報告集会

12月13日(日) 午後 全水道会館4F

講師 宮本博司(元 近畿地方整備局河川部長)

*詳細は未定(決まり次第、Webでお知らせします)

編集後記

最終局面に入ったハツ場ダム建設にかかわる現地公聴会。千葉の会からは千葉県民の視点で3人が陳述しました。中村さんはモーツァルトのたおやかな調べ、武笠さんはベートベンの交響曲の終楽章の高まり、そして村越さんのバッハの管弦楽曲の淡々たる調べを聞く雰囲気での陳述。国交省の担当者はどのような思いで受け止めたのか？ 民主的手続きの仮装の下に事業主体のひそやかな笑いが漏れている感じ。筆者の居住する東葛飾への帰路、江戸川橋梁を渡る。この河川水の一部には、彼の地で営んできたこれまでの生活を捨てふるさとを離れた人たちの思いが混じっているのだとの思いがよぎりました。（坂倉敏雅）